

5. 学びのネットワークの活用と成果の普及

5.1. 研究開発の経緯・課題

本校では「高校生の学びを支えるネットワーク」を、「①高校教員間の連携」「②高校生間の交流と連携」「③連携機関(大学・研究所・企業等)との連携」という3つの立場に整理して取り組んでいる。①と②は、本書後半の重点枠にも関連する。現在③は、卒業生を活用して、専門的な立場から「卒業生の支援」を受けることも「実践型」である本事業のねらいとしており、本校卒業生で構成されるサイエンスアドバイザー(SA)制度を構築した。



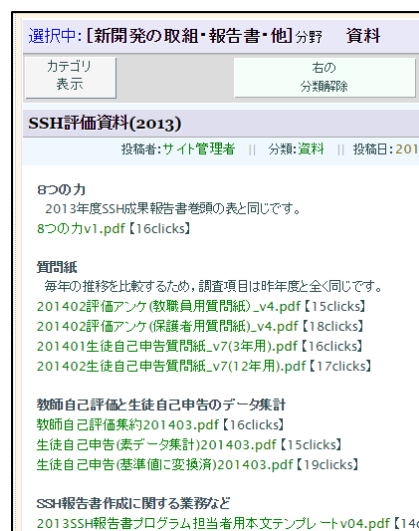
5.2. 今年度の研究開発実践(概要)

5.2.1. 方法・内容

本校では、サイエンスアドバイザーとのネットワークを支える「SAサイト(<http://sa.kobe-hs.org>)」や、教員・連携機関・高校生のための「成果の普及Webサイト<http://seika.ssh.kobe-hs.org/>」を運用しながら、研究開発・教育実践・効果の分析を進めている(第44章参照)。

「成果の普及Webサイト」は、本報告書の記載内容の根拠を提供するものでもある。本校のSSH事業で開発・実践した授業・行事の方法、教材や資料、実践における問題点等のデータを「成果の普及のために」公開している。右上図のようなカテゴリーから構成され、クリックすると、右下図のように、おもにpdfファイルとして事業で使った教材等の資料や分析データを見ることが出来る。特徴は次のとおりである。

- 実践の実態・資料・成果物等がそのまま公開
- 閲覧者とのコミュニケーション(双方向情報伝達)が可能



5.2.2. 結果・考察

今年度使用した多くの資料は、本報告書作成後にアップロード予定であり、200ファイル程度と予想される。2015年3月9日時点で下表のような活用状況となっているが、閲覧数の多い記事やファイルは、コンピュータを使った検索が比較的行われる分野が多いとも考えられるが、特徴を端的に示す名称の記事やファイルも閲覧されやすい傾向が読み取れる。各記事に適切なキーワードが含まれるように考慮することの必要性を検討すべきである。

記事の閲覧回数(上位20記事) ※ 長い表題一部省略	pdfファイルのクリック(閲覧)数 (上位20ファイル)
① サイエンスツアー I 「京都大学舞鶴水産実験所」	① 05faraday_2nenlgakki. pdf 1297
② 情報：マーク式の練習問題 その2	② 03中和滴定. PDF 1256
③ 情報：マーク式の練習問題 その1	③ 02hannou_1nen3gakki. pdf 648
④ 全コンテンツ	④ 04phkyokusen_2nenlgakki. pdf 450
⑤ 理数化学1年の実験プリント	⑤ 04pH曲線. PDF 390
⑥ 数理情報：論理回路実習(2013)	⑥ 01garasuzaiiku_nyuumonkagakulgakki_. pdf 328
⑦ 理数数学 I I ・探究 2年(2012)	⑦ 融点. pdf 275
⑧ SSH評価資料(2012)	⑧ 比色分析. PDF 222
⑨ 2012数学オリンピック	⑨ 01kongoubutubunri_1nen2gakki. pdf 213
⑩ 理数化学1年(2012)	⑩ 情報01プレゼン03アドバイスシートB5. pdf 210
⑪ 科学英語(2012)	⑪ 重力加速度の測定. pdf 206
⑫ モデル化とシミュレーション(実習例：表計算ソフト)	⑫ 02zikkenhazime1_1nenlgakki. pdf 184
	⑬ 02yuuten_nyuumonkagakulgakki_. pdf 64
⑬ 理数数学I (2012)	⑭ 公開用2011関東サイエンスツアーのしおりv5. pdf 152
⑭ 理数数学 I 年間指導計画	⑮ 2011課題研究物理(超指向性スピーカ). pdf 146
⑮ コンピュータのしくみ-デジタル表現に関する学習の準備(位取り記数法)	⑯ 平成23年度課題研究発表・評価シート(1年用). pdf 139
⑯ 「サイエンス入門」授業資料(2012)	⑰ 情報02デジタル化スライド計算演習(情報量)指導用v2(A4). pdf 125
⑰ サイエンスツアーII「関東サイエンスツアー」	⑱ SSH運営指導委員会資料(第1回)20121101. pdf 20
⑱ 情報：マーク式の練習問題 その3(文字・音)	⑲ 2011理数物理2年. pdf 114
⑲ 年度末等に行う調査	⑳ 情報01プレゼン01調べ学習&プレゼン要領. pdf 114
⑳ 理数化学2年の実験プリント	